2017年1月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第480号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』が、「地方出版文化功労賞」を受賞

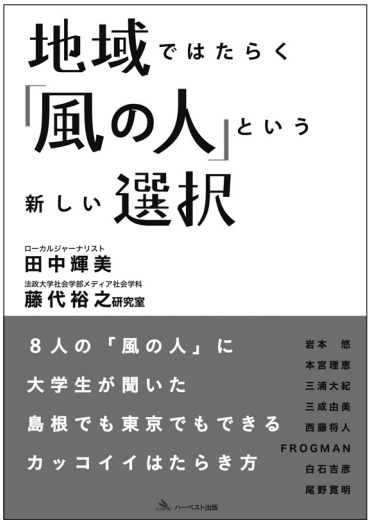
文・ハーベスト出版編集担当　沖田知也

3年ぶりの最高賞

第29回地方出版文化功労賞の受賞作が9月21日に発表され、『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』（ハーベスト出版）が選ばれました。

同賞は、地方発の出版を表彰している鳥取県の「ブックインとっとり実行委員会」（小谷寛実行委員長）が主催。今回の審査対象は2014年10月～15年9月末までに出版された496冊で、賞の趣旨や審査の公平性から、東京23区と鳥取県内の出版社および県内在住の人が出版した本は除かれます。

候補作を鳥取県内の図書館で展示し、その中から来場者による一般投票などで絞り込んだ上で、審査員12名による最終審査をうけ、「功労賞」ならびに「奨励賞」の受賞作品が決まります。今回受賞した最高位の「功労賞」は、過去2年間に該当作品がありませんでした。



『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』田中輝美、法政大学藤代裕之研究室（編著）／ハーベスト出版刊／2015年8月11日発行／ISBN978-4-86456-156-3 C0036／A5判並製本272頁/￥1,400+税

人と地域をつなぐ「風の人」

「風土」という言葉があるように、地域には「土の人」と「風の人」がいると言われています。「土の人」とは、その土地に根を下ろし、地域を支え続ける人のことです。一方で、「風の人」は外部から地域に変化をもたらしますが、一定の期間で他の地域に移動することも少なくありません。

『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』では、地域にコトを起こし、地域を面白くする「風の人」に注目し、ローカルジャーナリストとして活動する田中輝美さんと法政大学社会学部藤代裕之研究室のゼミ生らが、「風の人」8人に密着取材しました。大企業を辞めてIターンした離島で高校を甦らせた人、葛藤をバネに「帰ってこられる地域」をつくろうと立ち上がった人など、島根県を活動拠点に都市と地方を行き来する「風の人」の働き方、その思いに迫っています。

紹介する「風の人」の活躍は、単なる成功譚に留まりません。「風の人」たちがお互いに刺激し、影響し合うことで、また新たな視点や発想が生まれ続けます。本書を通して読んでいただくと、それぞれの分野で活躍する「風の人」たちがつながっていく様子が、ひいては島根県全体が面白い地域になっていくストーリーが感じられると思います。

「功労賞」の選考理由

「功労賞」にかかる審査評では、「ありがちな表面的な成功譚に終わっていない点において、地域の活性化にかかわる人たちを取り上げた類似本とは頭一つ抜けている」と評価されました。具体的な選考理由は、以下の通りです。

「地域の活性化に活躍した人たちの活躍以前からの流れとその働き方を、法政大学のゼミ生たちのインタビューをもとに紹介した本である。地域の活性化にかかわる人たちを取り上げた本は近年多く出版されている。また取り上げた人数のため、あるいは取材者が学生だったこともあってか、もう一歩踏み込んでほしいという審査評も複数見られた。

しかし、それらを踏まえたうえでこの本を功労賞にということで審査会は一致した。以下にその理由を述べる。

①もともとは普通の人（少なくとも地域活性化に強い関心を持たなかった人）がそれぞれの活動で大きな足跡を残す過程を、取り上げられた人の本音とともに、生きた言葉で語られることが驚きと納得感、さらには読後の充実感を与える。

②地方には一片の興味もなかった者もいる学生たちが、地域ではたらくことの意義をそれぞれなりに考えてインタビューを行っており、また、その反作用も含め、各章末の取材後記に（模範解答ではない）光るものがみられる。

③学生、指導教官、ローカルジャーナリストの三者の立ち位置や考え方の違いがうまく作用し、類本を一歩超えた『多くの人に読んでもらいたい』本となっている。」（表彰式当日配布資料より転載）

何かにチャレンジしたい、すべての人へ

受賞をうけて、10月22日に米子市立図書館にて「地方出版文化功労賞」の表彰式ならびに受賞記念講演会が行われました。講演会では著者の田中輝美さん、執筆当時大学4年生だった坂井友紀さんが「風の人を取材して」という演題でスピーチしました。

坂井さんは社会人1年目を迎えた今、受賞にあたり読者の立場で本書を読み直したところ、涙が出るほどの感銘を受けたといいます。

「（本書を読んで）チャンスは逃しちゃいけない、逃さないための準備を着々としなければいけない、やりたいことはいろんな場所でできると思わされました。この風の人から後押しされる気持ちは、風の人全員に共通する『行動力』から生まれたものだと私は思います。

（中略）この本を読んだ人はきっと、『風の人なんて特別だ』という気持ちではなく、自分も風の人になりたい、なれる、と思えるはずです。

地域に興味がなくても、少し地域に興味がわいてくる。何か漠然とやりたいと思っている人の一歩を後押ししてくれる。まさにのちの自分、今の私、がターゲットとなるような本に関われたことをとても嬉しく思います」と自身の立場の変化を踏まえ、本書が何かにチャレンジしたいと思っている「潜在的チャレンジャー」へのエールになるはず、と語りました。

本書で紹介される「風の人」は、どなたも初めから「風の人」だったというわけではありません。幾度も失敗し、挫折し、いろんな経験を重ねて今の状況がつくられています。坂井さんのように、読者はその時々の境遇、立場によって「風の人」から何か感じ取る事ができるはずです。

みんなと一緒に、本をつくる

田中輝美さんは、本をつくるきっかけから発刊後のイベントまでの「風の人プロジェクト」を中心にお話しされました。

田中さんは地方紙の記者だった頃から、地域の面白さをどのように全国に発信すればよいか悩み続けてきたといいます。単に著者が本を執筆して出版するよりも、少しでも多くの人に届き、より地域の中と外をつなげるにはどうしたらよいか。東京中心とは別の形を模索した結果、「ないなら、つくろう」と地域の人たちと一緒に本をつくることを思い立ちます。

そこでインターネットのクラウドファンディングに取り組み、出版を応援してくれる支援者をつのりました。結果、24時間以内に目標額を達成。多くの人が、本づくりの応援に集まりました。

出版の準備が整った段階で、地域から発信するからには東京ではなく、地元の出版社から出したいと弊社に原稿を持ち込まれました。企画書と原稿の一部を読み、これはとても大きな広がりになると社内で話し合い、本の出版が決定。我々編集部は、いかに著者の「思い」を本に落とし込むか、著者の皆さんと相談しながら議論を重ねました。学生は文章を書くプロではありません。「風の人」の雰囲気が伝わるよう語り口調を極力生かし、本文に取り入れました。

また、地方という「枠」が全国発信の障壁にならないよう、いくつか工夫をしています。読者の関心のふるいに掛けられるのを避けようと、書籍のタイトルに「島根」の文字は入れていません。帯は「全国版」と「島根版」の2種を制作しました。これも地元と県外の読者では関心の向く先が違う、という前提を意図したものです。

本が完成した後、どのように広く伝えるか。発刊後は島根と東京でいくつもイベントを企画し、8名の「風の人」全員に参加していただく場を設けました。イベントは支援していただいた方への報告、お礼の意味合いも兼ねたもので、我々編集部も参加し、読者の皆さんの感想を直接聴けるありがたい機会をいただきました。

講演会「風の人を取材して」の様子

著者の田中輝美さん

執筆当時4年生だった坂井友紀さん

「地方」×「本」の可能性

地域の人々と一緒につくり、一緒に発信していくと、地域をつくる「当事者」の意識が芽生える。そこから、これはどこにも負けないというものが磨かれ、独自の文化が発展し、地域はますます面白くなっていく。これは田中さんのスピーチの最後に語られた言葉です。

クラウドファンディングで支援していただいた方をはじめ、多くの人と一緒につくった『風の人』。

様々な形で支援された地域の皆さんは、正に本づくりの「当事者」として本書の情報を発信、拡散されました。みんなでつくり、みんなで発信する新しい地方発の出版は鮮烈な試みでしたが、この挑戦が結果的に「功労賞」の受賞へつながりました。

本書が、これからの地方発の情報発信の形として、一つのモデルになりうるのではないかと思っています。

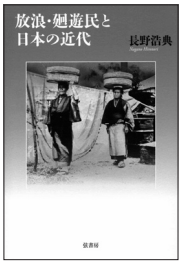
＊

（おきたともや／ハーベスト出版編集担当）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

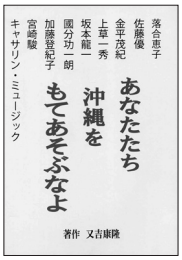
『放浪・廻遊民と日本の近代』●長野浩典著



いまや地球規模で不寛容な時代である。勿論わが国も例外ではない。なぜ人類は他者に対しこんなにも不寛容になっているのか。理由は様々だが、過去から学ぶことも意味があろう。本書は、かつて日本において国家の埒外に置かれた人びと＝放浪・廻遊民に目を向けている。「サンカ」（山の廻遊民）・家船（海の廻遊民）・浮浪らい（ハンセン病者）・乞食らが近代化の名の下にいかなる試練を受けたかを丹念に追っている。国家の側からすれば彼らは不衛生な集団あるいは犯罪者集団であり、社会不安を引き起こす元凶ゆえ取り締まりの対象、さらには撲滅せねばならない存在だということ。だが、彼らからすれば、たとえ貧しく過酷な生活を強いられていても、家族や親しい人びとが互いに寄り添って暮らしていける社会でもある。困窮する浮浪らいを温かく迎え入れる「サンカ」の話には深く考えさせられる。理解・寛容・共生の理念を実現させるためにも「人間の根源」が問われる。

◆ 2376円・四六判・305頁・**弦書房**・福岡・2016/12刊・ISBN9784863291430

『あなたたち沖縄をもてあそぶなよ』●又吉康隆著



落合恵子、佐藤優、金平茂紀、植草一秀、坂本龍一、國分巧一朗、キャサリン・ミュージック、加藤登紀子、宮崎駿。いずれも夫々の分野で活躍し、現代社会に影響力を持つオピニオンリーダーである。沖縄問題にも積極的な発言をしている。しかし著者は彼らが沖縄の歴史、現実を正しく見ようとせず、真実を捻じ曲げていると厳しく批判する。詩「沖縄の辞書」で「粛々と」の意味を「民意をふみにじって」と書きかえなければならないと詠った落合に、米軍基地のおかげで沖縄は戦後70年間平和であり、人口も4倍以上増えたと。機動隊を暴力装置という國分に、座り込みによる国道封鎖は暴力行為ではないのかと。サンゴ死滅を指摘するキャサリンには、キャンプ・シュワブがあったから大浦湾の自然は保たれていると。沖縄県読谷村に生まれ、68年間この地に暮す著者ならではの指摘だ。沖縄はどうあるべきなのか。前向きの議論が展開されていくことを願わずにはいられない。

◆ 1458円・A5判・176頁・**ヒジャイ出版**・沖縄・2016/10刊・ISBN9784905100188

『一畑電車写真集』●原知之・根宜康宏著

島根県松江市の松江しんじ湖温泉駅から宍道湖の北岸を西へ走り、出雲市にある電鉄出雲市駅までを結ぶ北松江線と、途中の川跡駅から出雲大社前駅を結ぶ大社線のふたつの路線を持つ一畑電車。沿線には四季折々に多彩な表情を見せる自然があり、それを包み込む宍道湖の水面はあくまで穏やか。収められた写真からも自然とのどかさが伝わってきます。そしてそんな風景の中を走り続けて開業から既に100年以上。出雲大社駅や布崎変電所などの施設は国の登録有形文化財にも指定されていますし、他社から来た中古車や戦前生まれの車両など、車両にも歴史を感じます。といっても古いだけではありません。島根県のご当地キャラ「しまねっこ」とコラボレーションした“ご縁電車”しまねっこ号も走っていますし、今年は86年ぶりに新造車も登場しました。本書を手に取り、伝統を受け継ぎながら着実に歩みを進めていく一畑電車の魅力にふれたら、もう乗りに行かずにはいられません。

◆ 2160円・25.4x23.8cm判・108頁・**今井出版**・鳥取・2016/10刊・ISBN9784866110448

『されどオオカミ』●きむらゆういち著

山奥からオオカミの遠吠えが聞こえる。オオカミの群れはバートルたちが飼っている羊や鶏を次々と襲う。オオカミを憎むバートルはやがてモンゴル相撲では彼の右に出る者はいないほどの強い若者に成長する。いつかボスのタオを倒してやろうと追いかけているうちにタオの真の姿が見えてきたバートル。自分より群れのことを考え、戦う相手とも正々堂々と勝負し、決してずるい手は使わない。オオカミだって懸命に生きている。なんとか人間と一緒に生きていけないかとバートルが考え始めた時、我慢の限界を越えた村人たちにタオを倒すよう頼まれる。戦いの行方はどうなるのだろうか。

『モンゴルの自然や知恵と日本の絵本の素晴らしさを互いの子どもたちに伝えたい』そんな思いから発足したモンゴル絵本プロジェクト。その第一弾を「あらしのよるに」で有名な著者が手がけた。迫力のある絵も楽しめ、人間と動物の共存についても考えさせられる。

◆ 1512円・A4変形判・36頁・**あるまじろ書房**・東京・2016/10刊・ISBN9784904387092

『廃校＋　ー地域生活応援誌「Ｊｕｎｔｏｓ　ｖｏｌ．８９」』●小野寺知子編著

人口減時代が始まり、地域の核といえる学校の統廃合が進んでいる。文部科学省の調査によると、平成14年度から25年度（12年間）の間に廃校となった公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の数は5,801校にも及ぶという。このうち、3,587校（62％）は有効活用されており、取り壊されたものは701校（12％）と少数である。残る1,513校（26％）は活用されていないが、多くは活用の用途を模索しているという（平成26年5月現在）。

本書には、全国各地の廃校施設の活用事例が紹介されている。活用用途は専門学校、地域の体育館、美術館、介護福祉施設、企業の工場、体験交流施設、備蓄倉庫など幅広いが、地域の方々が主体的に運用し、活性化につなげている例は興味深い。特に、宿泊客の食堂が「集落居酒屋」を兼ねている木造校舎の宿泊施設は面白いと思った。「廃校」をキーワードとすると、地域の方々との接点がある良い旅ができそうな感じがした。

◆1080円・Ｂ５判・72頁・**全国コミュニティライフサポートセンター**・宮城・2016/10刊・ISBN9784904874509

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2016年11月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8％）表示です。

【雑誌】

◆**ゆきのまち通信**　１６７　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-20991-7　16/11

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．０６　渡辺直明編　Ａ４　111頁　７３０円　下野新聞社［栃木］978-4-88286-628-2　16/12

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４４３　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-75-6　16/11

◆**くらしと教育をつなぐ　We**　No．２０５　中村　泰子編　稲邑　恭子編　Ａ５　80頁　８６４円　フェミックス［神奈川］978-4-903579-74-0　16/12

◆**Ｂｅ！**　１２５号　No．１５０　今成　知美編　Ａ５　111頁　８６４円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-901030-27-4　16/12

◆**仏事**　No．１９５　奥村　昇編　Ａ４　106頁　１６２０円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21009-8　16/12

◆**月刊住職**　No．２１６　矢澤　澄道編　Ａ５　210頁　１４０４円　興山舎［東京］978-4-908027-28-4　16/11

◆**月刊住職**　No．２１７　矢澤　澄道編　Ａ５　199頁　１４０４円　興山舎［東京］978-4-908027-29-1　16/12

◆**研究　子どもの文化**　No．１８　鈴木　孝子編　菊地　広子編　Ａ５　93頁　１０８０円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-21008-1　16/11

◆**子どもの文化**　No．５４６　片岡　輝編　Ａ５　48頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-20988-7　16/11

◆**子どもの文化**　No．５４８　片岡　輝編　Ａ５　46頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-21006-7　16/12

◆**子どもと本**　第１４７号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６３７円　子ども文庫の会［東京］978-4-906075-51-5　16/10

◆**ｔｈｅ座**　No．８９　大高　由子編　Ｂ５　32頁　９００円　こまつ座［東京］978-4-503-20997-9　16/11

◆**茶道の研究**　No．７３２　三徳庵編　Ａ５　80頁　５４０円　三徳庵［東京］978-4-503-20987-0　16/11

◆**調査情報**　No．５３３　岩城　浩幸編　Ｂ５　96頁　７８９円　ＴＢＳテレビ［東京］978-4-906908-94-3　16/11

◆**東京かわら版**　No．５１９　佐藤　友美編　204mm×108mm判　158頁　５００円　東京かわら版［東京］978-4-503-21000-5　16/11

◆**俳句四季**　No．４７２　西井　洋子編　松尾　正光編　Ｂ５　160頁　９３１円　東京四季出版［東京］978-4-503-20995-5　16/11

◆**みんなの図書館**　No．４７６　図書館問題研究会編　Ａ５　80頁　８１０円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-20994-8　16/11

◆**おりがみ**　No．４９７　日本折紙協会編　Ａ４　51頁　７８６円　日本折紙協会［東京］978-4-86540-043-4　16/12

◆**海運**　No．１０７０　日本海運集会所編　Ａ４　80頁　１２９６円　日本海運集会所［東京］978-4-503-20990-0　16/11

◆**Ｆｕｊｉ　Ａｉｒｗａｙｓ　Ｇｕｉｄｅ**　No．６３１　フジ・インコーポレーテッド編　Ｂ５　97頁　３８０円　フジ・インコーポレーテッド［東京］978-4-503-21002-9　16/11

◆**フライの雑誌**　第１１０号　堀内　正徳編　Ｂ５　144頁　１８３６円　フライの雑誌社［東京］978-4-939003-68-4　16/12

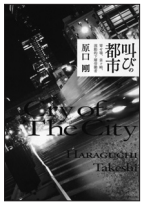
◆**ＡＲＯＭＡ　ＲＥＳＥＡＲＣＨ**　No．６８　高橋　由美編　Ａ４　100頁　２１６０円　フレグランスジャーナル社［東京］978-4-503-21007-4

売行良好書

期間：2016年11月15日～12月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(2)『先生が本（おはなし）なんだね』1728円・小澤昔ばなし研究所　(3)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(4)『村上春樹とイラストレーター』1944円・ナナロク社　(5)『叫びの都市』2592円・洛北出版　(6)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスク・ヒューマン・ケア　(7)『新編　荒野に立つ虹』2916円・弦書房　(8)『アウシュヴィッツのコーヒー』2700円・石風社　(9)『台湾史小事典　第三版』3024円・中国書店　(10)『井伊家十四代と直虎』1944円・サンライズ出版　(11)『鯉のぼりの御利益』1200円・東京かわら版　(12)『平成の湯治宿』1620円・九州人　(13)『ぐんまの城３０選』1728円・上毛新聞社



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(2)『本の雑誌　４０３号』840円・本の雑誌社　(3)『おすすめ文庫王国２０１７』820円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　１２月号』500円・東京かわら版　(5)『石神さんを訪ねて』1404円・山陰中央新報社　(6)『信濃中世武家伝』1512円・信濃毎日新聞社　(7)『たべるのがおそい　ｖｏｌ．１』1404円・書肆侃侃房　(8)『たべるのがおそい　ｖｏｌ．２』1404円・書肆侃侃房　(9)『新編荒野に立つ虹』2916円・弦書房　(10)『温泉達人会　ｖｏｌｕｍｅ１０』1080円・海象社（渋谷）

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(2)『新編　荒野に立つ虹』2916円・弦書房　(3)『アウシュヴィッツのコーヒー』2700円・石風社　(4)『三江線ＢＯＯＫ』1296円・ハーベスト出版　(5)『放浪・廻遊民と日本の近代』2376円・弦書房　(6)『奥武蔵登山詳細図　武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山　全１３０コース』950円・吉備人出版　(7)『熊本地震　連鎖の衝撃』・1500・円・熊本日日新聞社　(8)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』823円・吉備人出版　(9)『奥多摩登山詳細図（東編）　大岳山・御嶽山・川苔山・棒ノ嶺　全１３０コース』950円・吉備人出版　(10)『ＳＰＲＩＤＥ　ｖｏｌ．０６』730円・下野新聞社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼「信州しおじり本の寺子屋」講座のお知らせ　2017年1月30日　月曜日　【選書でひらく図書館の未来】講師・豊田高広／同企画展スケジュール　2017年1月5日(木)～1月29日(日)　【書籍からわかる開国後の日本(仮)】　場所:塩尻市立図書館　〒399-0736　長野県塩尻市大門一番町12番2号（えんぱーく内）　電話:0263-53-3365(直通)　ファクス：0263-53-3369

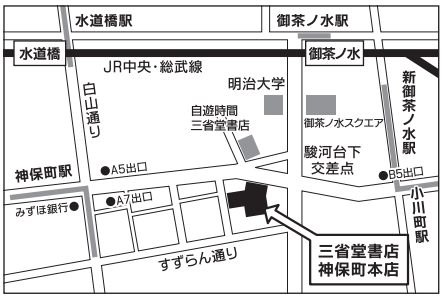
▼当センターとは直接取引きで出版物を販売してもらっていた、岩波ブックセンター信山社が廃業することになりました。岩波書店の書店事業を引き継いで2000年に設立された有限会社信山社が運営主体でした。代表権を持つ社主である柴田信氏が10月に急逝されて、残った社員で約1ケ月半営業してきましたが、負債も多く継続して運営する経営主体を探すことができませんでした。同店は岩波書店の刊行物を主体に販売していましたが、関連する人文社会・歴史などの、一言で言えば硬派のアカデミックな出版物を刊行する出版社群の本も積極的に扱い、独特の雰囲気を持つ品揃えでした。また土地柄出版関係者が多いこともあり、「出版・マスコミ・編集」関係の本を集めたコーナーが充実していました。

▼当センターは１２月２８日（水曜日）で終業　1月5日（木曜日）始業です。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。